

医学教育分野別評価
久留米大学医学部医学科
年次報告書
2021 年度



令和3年8月
久留米大学

医学教育分野別評価 久留米大学医学部医学科 年次報告書 2021 年度

医学教育分野別評価の受審 2019(令和元)年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.31
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33

はじめに

本学医学部医学科は、2019年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2021年2月1日より7年間の認定期間が開始した。受審後の初年度(2019年11月1日～2021年3月31日)は、評価結果を教職員と学生に周知し、本学の教育の特色と改善すべき点を認識し、喫緊の課題があれば早急に取り組むことを目標にしたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行で感染対策や遠隔授業に多くの時間を割かれ、評価報告書確定版(2021年1月18日)による評価や助言に対して、改善活動を十分に行う余裕がなかったのが現状である。そこで、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33を踏まえ、2020年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2019年11月1日～2021年3月31日を対象としている。また、重要な改訂があった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.32の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1の改善項目として、「学修成果をコンピテンシーとして表現する」、「使命に国際的健康と医療の観点を明確に記載する」、「使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性について検討する」などが指摘された。これを受け、本学の「建学の精神」が制定されたが、使命の内容の変更、学修成果の表現、使命と学修成果の整合性の検討については、引き続き、改善活動を続ける。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①「国手の理想は常に仁なり」という医学部医学科の理念の下に、地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成を目標として、大学の使命に社会的責任を包含している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学部医学科の理念「国手の理想は常に仁なり」と同様、久留米大学の「建学の精神」も、本学の前身である九州医学専門学校の校歌(北原白秋作詞)の一節から、「国手の矜持(ほこり)は常に仁なり」に決まった。これにより、大学の「建学の精神」と「基本理念」、医学部医学科の「使命」「学修目標」「学修成果」が明確になった。今後は、「建学の精神」を教職員と学生に周知し、必要に応じて使命(教育目的)と学修目標(三大目標)を見直すように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

211 教授会議議事摘録(令和元年12月11日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①使命に国際的健康と医療の観点を明確に含むことが期待される。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命は「時代や社会、そして地域の多様なニーズに対応できる実践的でヒューマニズムに富む医師を育成するとともに、高水準の医療や最先端の研究を推進できる人材を育成する」であり、年度初めの教授会議で理念と使命(教育目的)が審議され、変更なく承認された。今後は、使命の後半部について、「高水準の医療や最先端の研究を推進できる国際的な人材を育成する」に変更するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

214 教授会議議事摘録（令和2年4月8日）

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①学修成果はその達成を示す形のコンピテンシーとして表現すべきである。
- ②使命・ディプロマポリシーと学修成果との整合性について検討すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性については、カリキュラム委員会でワーキンググループを立ち上げて取り組むことが審議され、了承された。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会と医学教育ワークショップにおいて、使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性を議論するとともに、学修成果の表現は達成を示す形のコンピテンシーに変更するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

251 カリキュラム委員会議事摘録（令和2年12月18日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①久留米大学病院では独自の臨床研修終了時の学修成果を定め、卒業時の学修成果との整合性をとっている。

改善のための示唆

- ②医学研究に関して学修成果をコンピテンシーとして明示することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくに改善活動を行っていない。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会と医学教育ワークショップにおいて、医学研究に関する学修成果をコンピテンシーとして明示するように議論し、例えば、「科学的探究心と自己研鑽」の「国内外の医学研究の動向を知り、科学的研究に興味を持てる」の後半部を「研究課題の設定、研究方法の選択、研究結果の解釈を行える」に変更するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①使命と学修成果の策定に関し、教員・職員・学生が参加する医学教育ワークショップを定期的
に開催し、議論を重ねたことは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

2020年8月に開催予定であった医学教育ワークショップ(隔年開催)は、コロナ禍(第2波)で実施できなかった。本報告書作成時点では、2021年8月の開催も未定である。今後は、オンライン方式での実施も視野に入れて開催を検討する。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①使命と学修成果について、教育関連病院長や医療関係行政組織担当者など、広い範囲の教育関係者から意見を聴取している。

改善のための示唆

①今後、使命と目標とする学修成果を策定する際には、他の医療職や患者の代表者などからの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育関連病院長との懇談会では、医学教育分野別評価の受審結果を報告し、使命や学修成果についても、学外の教育関係者からの意見聴取が重要であることを報告した。今後は、医学教育ワークショップを行うとき、「使命と学修成果」をテーマに挙げ、主要な教育構成者だけでなく、医療専門職(看護師・薬剤師・臨床検査技師・診療放射線技師など)や患者の代表者から意見を聴取するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

213 教授会議議事摘録(令和2年3月11日)

2. 教育プログラム

領域2の改善項目として、「行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理して科目責任者を明確にする」、「重要な診療科での臨床実習期間を十分に確保して診療参加型臨床実習を充実させる」、「科目間の水平的統合と垂直的統合を推進する」などが指摘された。これを受け、現行の「行動科学」を整理し、「狭義の行動科学」を明確にして科目責任者を決めたが、重要な診療科での臨床実習期間の確保と科目間の水平的統合と垂直的統合については、引き続き、改善活動を続ける。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①PBL テュートリアルを独自に発展させた「協同学習」として、チーム基盤学習(TBL)・逆転授業・話し合い学習法(LTD)をさまざまな科目で取り入れていることは評価できる。

改善のための助言

①統合型から改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、卒業時コンピテンスと科目の関連性を明示すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学体系別・講座部門別のカリキュラムで授業科目の到達目標を明示しているが、卒業時コンピテンスとして足りない部分を洗い出す作業を行っている。今後は、教務委員会やカリキュラム委員会において、学修成果(卒業時コンピテンス)と科目や教育内容を関連づけ、カリキュラムやシラバスで明示するように、改善活動が続ける。なお、協同学習(第1学年)の授業は、緊急事態宣言発出による新入生オリエンテーション中止や出校停止の中、Zoomで大人数遠隔ライブ授業を試行した。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①臨床実習においてEBMの教育をさらに充実すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

評価チームに「臨床実習におけるEBM教育の充実」を指摘されたことについては、速やかに全診療科の教育主任に報告して注意を促した。学生と指導医が病院でEBMを利用できるように、臨床医学情報ツールとしての『UpToDate』の導入を検討し、契約や費用に関する情報収集を開始した。今後は、『UpToDate』を導入し、学生と教員医に活用を促し、臨床実習におけるEBM教育の充実を図るように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

810 医学教育研究センター マンスリーレポート(令和元年11月No.56)
271 教育主任会議資料(令和元年11月26日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.4 行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①「行動科学」の教育プログラムを明確に定義し、社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理・分類し、それぞれの科目責任者を明確にしてコーディネートすべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

行動科学部会が改善活動を行っている。2020年度は、①「行動科学」の教育プログラムを明確にし、②「狭義の行動科学」は、第4学年の行動経済学や健康行動理論に特化し、「広義の行動科学」は、第1学年の地域医療学、第2学年の医学概論/医道/医術/医心とチーム医療/多職種連携、第3学年の医療倫理学に整理し、③科目責任者は、行動科学Ⅳを谷原(公衆衛生学講座)、行動科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲを安達(医学教育研究センター)が担当した。今後は、第4学年の行動科学を狭義の行動科学に限定し、第1学年は地域医療学、第2学年は医療概説、第3学年は医療倫理学として科目を独立させ、それぞれの科目責任者を明確にするように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 288 行動科学部会議事摘録 (令和元年12月12日)
- 231 教務委員会議事摘録 (令和2年1月7日)
- 212 教授会議議事摘録 (令和2年1月8日)
- 289 行動科学部会議事摘録 (令和2年2月27日)
- 233 教務委員会議事摘録 (令和2年3月9日)
- 290 行動科学部会議事摘録 (令和2年10月22日)
- 240 教務委員会議事摘録 (令和2年11月9日)
- 220 教授会議議事摘録 (令和2年11月11日)
- 291 行動科学部会議事摘録 (令和3年1月12日)
- 242 教務委員会議事摘録 (令和3年2月8日)
- 221 教授会議議事摘録 (令和3年2月16日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①重要な診療科を中心に臨床実習期間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。

②学生が健康増進と予防医学の体験を確実に実践できるカリキュラムを定めるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

重要な診療科の臨床実習期間の確保については、カリキュラム委員会とクリニカル・クラークシップ部会が改善活動を行っており、2021年度の臨床実習は、精神神経科が2週間から4週間に延長し、医療センター総合診療科も2週間から4週間に延長することが決定した。診療参加型臨床実習の充実については、PCCE部会(第4学年の臨床実習前演習PCCEを統括)が改善活動を行っており、2020年度は、「診療参加型臨床実習の事前演習」と題して、①事前学習(e-Learning)は感染予防・症例報告・画像診断・カルテ記載・患者コミュニケーション・ナーシングスキル、②臨床実習見学は5年生に密着して現場を見学、③グループ学習は臨床技能訓練・専門職連携教育(職場訪問/発表会)・問題志向型症例検討(臨床推論を2コース選択)を行い、学生の満足度が高かった。学生のカルテ記載については、クリニカル・クラークシップ部会が改善活動を行っており、学生委員が議論に参加して「電子カルテ作成システム」の導入を計画した。今後は、カリキュラム委員会やクリクラ部会(教務委員会)が健康増進と予防医学の体験を実践できる機会を臨床実習に定めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 250 カリキュラム委員会議事摘録(令和元年9月3日)
- 285 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和2年10月30日)
- 286 クリニカル・クラークシップ部会議事摘録(令和3年3月5日)
- 281 PCCE部会議事摘録(令和2年9月30日)
- 239 教務委員会議事摘録(令和2年10月12日)
- 282 PCCE部会議事摘録(令和2年11月4日)
- 240 教務委員会議事摘録(令和2年11月9日)
- 283 PCCE部会議事摘録(令和2年12月2日)
- 241 教務委員会議事摘録(令和2年12月7日)
- 284 PCCE部会議事摘録(令和3年2月10日)
- 243 教務委員会議事摘録(令和3年3月9日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①2015年から導入した新カリキュラムにおいて、低学年から学外の施設で早期体験学習を実施している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.6 教育プログラムの構造・構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、科目間の水平的統合を推進することが望まれる。
- ②改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、基礎医学・行動科学・社会医学と臨床医学の垂直的統合を推進することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

科目間の水平的統合と垂直的統合については、カリキュラム委員会でワーキンググループを立ち上げて取り組むことが審議され、了承された。今後は、学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、科目間の水平的統合と基礎医学・行動科学・社会医学と臨床医学の垂直的統合を推進するために、カリキュラム委員会や教務委員会で議論するとともに、教員が科目間の水平的統合と垂直的統合を意識して講義や実習を行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

251 カリキュラム委員会議事摘録（令和2年12月18日）

2.7 教育プログラムの管理

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会の活動をより実質化し、カリキュラムの改善を計画・実施することが望まれる。
- ②カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラム委員会が改善活動を行っており、カリキュラム改革における第1学年と第2学年の科目調整を計画している。今後は、カリキュラム委員会の活動を具体化・実質化し、カリキュラムの改善を計画・実施するとともに、カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育関係者(他の医療職・患者・地域医療の代表者)を含めるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

251 カリキュラム委員会議事摘録(令和2年12月18日)

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①地域医療連携講座を設置して地域の教育関連施設と連携を取り、卒後の研修や臨床の実践につながる教育を行っている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①カリキュラム委員会を通じ、地域や社会の意見を取り入れて教育プログラムの改良を行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍の影響もあり、改善活動を行えていない。今後は、教育関連病院長との懇談会だけでなく、カリキュラム委員会の活動において地域や社会の意見を取り入れ、進行中のカリキュラム改革や教育プログラムの改良に反映させるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

3. 学生の評価

領域3の改善項目として、「学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築する」、「態度を確実に評価し、態度の評価が記録される仕組みを充実させる」、「臨床実習で様々な評価方法と形式を有用性に合わせて活用する」、「各科試験・総合試験・臨床実習評価について、評価方法の信頼性と妥当性を検証する」、「知識・技能・態度における形成的評価を充実させる」、「学生の評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックを全学生に公正に行う」などが指摘された。これを受け、教育主任会議で臨床実習における mini-CEX や 360 度評価の活用と形成的評価の充実を周知したが、学年縦断的な評価体制の構築、態度の評価と記録の仕組みの充実、評価方法の信頼性と妥当性の検証、評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックの実施については、引き続き、改善活動が続ける。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①独自の試験問題プールシステムの利用により総合試験の充実を図っていることは評価できる。

改善のための助言

- ①第1学年の「協同学習」では、相互評価や形成的評価を含む多角的な評価方法を導入しているが、学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築すべきである。
- ②態度を確実に評価し、その評価が記録される仕組みをさらに充実させるべきである。
- ③臨床実習において、Mini-CEX・多面的評価(360度評価)・電子ポートフォリオ評価とクリニカルスキル・トレーニングセンターを活用した評価など、様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ④卒業試験以外の評価においても外部の専門家による吟味を一層行うべきである。
- ⑤評価結果に対して正式な疑義申し立て制度を導入すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

態度の確実な評価については、教務委員会で点数制(1,000点を付与し、よければ加点、悪ければ減点)が提案され、学生の意見を聴取して決めるようになった。年度末の教務委員会と教授会議の進級判定では、態度評価を進級判定基準の要件に加え、COVID-19 感染予防対策としての Moodle への検温入力を怠っていた学生をリストアップし、「虚偽報告による態度不良」として条件つき進級扱いの審議対象者とし、態度評価の一部を確実に実行した。臨床実習の多面的評価については、各講座の教育担当者が集まる教育主任会議において、mini-CEX や 360 度評価の活用が説明された。臨床実習における多様な評価方法の有意義な活用については、クリニカル・クラークシップ部会で審議すべきであるが、コロナ禍で臨床実習の制限や中断があり、実施には至っていない。外部専門家による試験や評価の吟味と評価結果に対する疑義申し立て制度の導入も、未着手である。今後は、学年縦断的な評価体制と態度評価の仕組みとして、IR センターの設置と学生カルテの導入を具体化するように計画を進め、臨床実習における多角的な評価の構築、総合試験の外部評価システムの確立、評価結果に対する疑義申し立て制度の導入などを進めるように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 810 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和元年 11 月 No. 56）
- 244 臨時教務委員会議事摘録（令和 3 年 3 月 23 日）
- 223 臨時教授会議議事摘録（令和 3 年 3 月 24 日）
- 840 学生通知（令和 3 年 4 月 1 日）
- 271 教育主任会議資料（令和元年 11 月 26 日）
- 232 教務委員会議事摘録（令和 2 年 2 月 10 日）
- 001 将来構想策定会議中間報告書（令和 2 年 12 月）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①各科試験・総合試験・臨床実習評価などについて、評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育研究センターでは、医師国家試験の成績(点数)と卒業試験・総合試験・共用試験 CBT の成績(点数)の関連を検証し、強い相関があることを確認している(一部は部外秘)。今後は、IR センターの設置と学生カルテの構築を実現し、各科試験や臨床実習における評価方法を含めた評価の妥当性と信頼性を検証するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 815 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和 2 年 12 月 No. 69）
- 816 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和 3 年 3 月 No. 72）
- 244 臨時教務委員会議事摘録（令和 3 年 3 月 23 日）

3.2 評価と学修の関連

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①目標とする学修成果の達成を保証する評価であることを検証すべきである。
- ②知識・技能・態度における形成的評価をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

形成的評価の充実については、各講座の教育担当者が集まる教育主任会議において、態度評価や形成的評価の充実が説明された。今後は、現行の試験や評価が学修成果の達成を保証する評価であるかどうかについて、医学教育研究センターと教育評価委員会が連携して検証し、教員が日常的な教育活動の中で、知識・技能・態度の形成的評価を充実させるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 810 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和元年 11 月 No. 56）
- 271 教育主任会議資料（令和元年 11 月 26 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに適切な試験の回数と方法を検討することが望まれる。
- ②全学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的・建設的・公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医師国家試験の成績向上に向かって、試験の時期・回数・方法などを検討し、教務委員会や教授会議で審議している。また、学修対策部会における学生の要望を取り入れ、学内で行われるすべての試験は、試験終了後に問題と正解を学生に開示し、学生の評価が復習や自己学習に役立つようにした。今後は、各種試験の評価結果に基づき、適切な時期に具体的・建設的・公正なフィードバックを行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

230 教務委員会議事摘録（令和元年 11 月 11 日）

210 教授会議議事摘録（令和元年 11 月 13 日）

4. 学生

領域4の改善項目として、「使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参画する」などが指摘された。これを受け、学生は学修対策部会に参画しているが、使命の策定や教育プログラムの管理を審議する委員会への参画については、引き続き、改善活動を続ける。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①多様な入学者選抜方法を採用している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①地域や社会からの要請に応じて入学者数を定め、それぞれの入学枠の募集人員を調整している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①入学時から卒業時まで継続して個々の学生をきめ細かくサポートする学内コンサルタント制度を導入し、機能していることは高く評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍の学生支援として、分散授業(メイン教室とサブ教室にクラスを分割)・遠隔授業(講義音声画像をオンライン配信)・学年 LINE 運用(事務連絡専用携帯電話を購入して運用)・コロナ相談室開設(全学生に Moodle で通知)を4月に行い、対面授業が再開されても、時間割変更(学年別に時間差を設定)・立ち入り区域設定(臨床実習がある高学年と臨床実習がない低学年の接触を回避)・個別健康行動管理(体温測定と行動履歴の Moodle 入力)・飛沫防止設備(講義室のビニールシートや学生食堂の亚克力板)・経済的支援(QUO カードの配布や100円夕食の販売)を行った。今後も、社会的・経済的・個人的事情に対応して学生を支援するプログラムを提供するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 234 教務委員会議事摘録(令和2年4月6日)
- 214 教授会議議事摘録(令和2年4月8日)
- 235 教務委員会議事摘録(令和2年5月11日)
- 215 教授会議議事摘録(令和2年5月13日)
- 236 教務委員会議事摘録(令和2年6月8日)
- 216 教授会議議事摘録(令和2年6月10日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ① 使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

使命の策定を審議する委員会は開催されていない。PCCE 部会(教務委員会下部組織)では、プログラムの実施に関する議論に学生が参加しており、改善が見られ、効果的であるので、今後も続ける予定である(PCCE: Pre-Clinical Clerkship Exercise 臨床実習前演習)。学修対策部会(教務委員会下部組織)では、複数の学生が参加して意見や要望を述べているが、検討事項は成績

不振者対策・国試勉強計画・勉強部屋確保などである。今後は、使命の策定や教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参画するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

287 学修対策部会議事摘録（令和3年4月27日）

280 PCCE 部会議事摘録（令和元年11月26日）

281 PCCE 部会議事摘録（令和2年9月30日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5. 教員

領域5の改善項目として、「教員活動評価システムを活用して教員の活動や能力開発にフィードバックする方策を確立する」、「講師や助教が医学教育ワークショップに積極的に参加してカリキュラム全体を理解する」などが指摘された。これを受け、コロナ禍で開催を断念した医学教育ワークショップの代わりに電子FDを行い、若い教員の能力開発に活用したが、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策の確立については、引き続き、改善活動を続ける。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①教員の募集選抜に関する方針として、「求める教員像と教員組織の編制方針」が策定されていることは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①地域医療連携講座を開設し、地域医療教育に関する教員を選考していることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

地域医療連携講座は、2010年に福岡県の寄附講座として設置され、2020年度末も継続が更新され、6人の教員が地域医療教育と筑後地区の医療連携に従事している。今後は、久留米市保健所長を地域医療連携講座に所属する久留米大学医療センター総合診療科の准教授に迎え(2021年4月1日着任)、地域医療教育に関与する教員を充実させるように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育ワークショップを定期的に行い、種々の教育上の課題について議論している。

改善のための助言

- ①教員の活動を評価するシステムを活用し、エフォート率などを把握・評価してフィードバックする方策を確立すべきである。
- ②個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。
- ③講師や助教等の若い教員のFDへの参加率を向上させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育分野別評価の受審に際し、カリキュラム委員長が全講座に出向いてカリキュラム改革の内容を説明して質疑応答を行い(出張FD)、多くの教員がカリキュラム全体を理解することになった。医学教育ワークショップについては、コロナ禍(8月の第2波)で開催を断念したが、代わりに全教員を対象にした電子FD「コロナ時代の遠隔授業」(Moodle)を行ったところ、「リモート講義」は297人(基礎系教員を含む)、「オンライン実習」は286人(臨床系教員)の教員が受講し、講師や助教を含む多数の教員が参加した。今後は、教員の活動を把握・評価してフィードバックする方策を確立するとともに、定期的に行い、若い教員が継続的に研修を受けて自らの能力開発に努めるように、改善活動が続ける。なお、教員の活動と能力開発に関する方針は明文化されておらず、「教員の活動と能力開発に関する方針」と「教育スタッフ研修会の指針」を策定する計画である。

改善状況を示す根拠資料

814 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和2年9月 No. 66)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 教育資源

領域6の改善項目として、「診療参加型臨床実習の実質化に向けて学内外の指導者の能力向上を図る」、「学生の電子カルテへのアクセスを確保する」などが指摘された。これを受け、クリニカル・クラークシップ部会が改善に取り組み、学生委員が議論に参加して「電子カルテ作成システム」の導入を計画したが、臨床実習の指導者の能力向上や学生の電子カルテのアクセス確保については、引き続き、改善活動を続ける。

6.1 施設と設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①旧病棟と旧外来棟を有効に活用し、学生の自習室と共同学習室を確保している。
- ②実践的な臨床技能の教育・訓練を実施するためのクリニカルスキル・トレーニングセンターを設置している。
- ③学生の課外活動のための部室棟や学生の休憩用スペースが整備されている。

改善のための助言

- ①水害などの災害に対する避難訓練、確実な安否確認方法の整備、災害後の復旧・事業継続計画を検討し、実施すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍においても、B棟の学習室は第5学年、C棟の学習室は第6学年に限定して利用を許可し、感染対策を十分に行った上で、自習環境を確保した。総合診療棟のクリニカルスキル・トレーニングセンター(トレセン)は、高学年の学生の臨床技能教育に利用されており、利用件数と利用者数は、2019年度が62件と1,860人、2020年度が61件と1,454人であり、コロナ禍においても有効に活用されている。第1学年～第4学年の授業は、教育1号館の講義室を対面と同時配信に分け(クラス分散授業)、学生食堂は全席にアクリル板を設置し(保護者が寄贈)、授業時間をずらして昼食時に密集しないように感染対策を講じ、できるだけ学生が出校して授業を受けられるようにした。また、事務連絡専用携帯電話を購入して学年LINE運用を開始し、COVID-19感染対策を含めた災害に対する緊急連絡や安否確認に使えるようにした。今後は、安否確認方法を整備し、災害避難訓練を実施し、災害後の復旧・事業継続計画(BCP)を作成するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 800 クリニカルスキル・トレーニングセンター会議議事摘録(令和3年3月31日)
- 235 教務委員会議事摘録(令和2年5月11日)
- 215 教授会議議事摘録(令和2年5月13日)
- 236 教務委員会議事摘録(令和2年6月8日)
- 216 教授会議議事摘録(令和2年6月10日)

- 237 教務委員会議事摘録（令和2年7月6日）
- 217 教授会議議事摘録（令和2年7月8日）
- 238 教務委員会議事摘録（令和2年9月7日）
- 218 教授会議議事摘録（令和2年9月9日）
- 239 教務委員会議事摘録（令和2年10月12日）
- 219 教授会議議事摘録（令和2年10月14日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生からの要望を反映させ、教育の施設設備を整備している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生が臨床実習で適切な臨床経験を積めるように患者数と疾患分類を確保している。

改善のための助言

- ①診療参加型臨床実習の実質化に向けて、学内外の指導者に対しても指導能力のさらなる向上を図るべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習直前の PCCE では、問題志向型症例検討(POCD)を全診療科が参加する協同学習方式に変更し、臨床実習の指導医が協同学習の手法を学ぶ事前説明会をアクティブラーニング委員会の基礎系教員が実施した。今後は、診療参加型臨床実習の実質化に向けて、例えば電子 FD「臨床実習指導者研修会」を開催し、学内外の臨床医の指導能力のさらなる向上を図るように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 282 PCCE 部会議事摘録（令和2年11月4日）
- 283 PCCE 部会議事摘録（令和2年12月2日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①導入した電子シラバスを初めとして、情報通信技術をさらに有効かつ倫理的に活用すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

本学は電子シラバス(Moodle)を最大限に活用しており、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の国内流行の第1波(2020年4月)においても、「新型コロナ対策教育支援室」(チームK)を立ち上げ、動画配信や遠隔授業のシステム構築や教職員FDを行い、教育活動への悪影響を最小限に抑えることができ、Moodle用のサーバーに不具合が生じたときも、独自に代替システムを構築して対応し、学生の学習に支障を生じないように活動した。臨床実習の電子カルテ記載は、当初は電子シラバスを通じて行うことを想定していたため、倫理的問題を改善項目として指摘されたが、2019年9月に大学病院の電子カルテシステムの更新に伴い、学生のカルテ閲覧とカルテ記載は電子シラバスと独立して行うようになり、患者の個人情報保護など、電子カルテを倫理的に活用するように指導している。今後は、IRセンターが学生カルテを構築するため、運用指針とともに倫理指針を作成し、学生の個人情報保護に留意するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

812 医学教育研究センター マンスリーレポート(令和2年4月 No. 61)

813 医学教育研究センター マンスリーレポート(令和2年5月 No. 62)

234 教務委員会議事摘録(令和2年4月6日)

214 教授会議議事摘録(令和2年4月8日)

235 教務委員会議事摘録(令和2年5月11日)

215 教授会議議事摘録(令和2年5月13日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①情報通信設備が整備され、自己学習への活用が行われている。

改善のための示唆

①診療参加型臨床実習の実質化のために、学生の電子カルテへのアクセスを確保することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

コロナ禍においても、情報通信技術を最大限に活用し、講義の動画配信や臨床実習の教材配布を積極的に行い、学生の学習に支障を生じないようにした。臨床実習における電子カルテの使用については、学生の権限が閲覧のみに限定されているため、カルテ記載については、臨床・クラークシップ部会が改善活動を行っており、学生委員が議論に参加して「電子カルテ作成システム」の導入を計画した。今後も、診療参加型臨床実習の実質化のために、大学病院への要請を辛抱強く続け、学生が電子カルテに記載できるように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 236 教務委員会議事摘録（令和2年6月8日）
- 216 教授会議議事摘録（令和2年6月10日）
- 237 教務委員会議事摘録（令和2年7月6日）
- 217 教授会議議事摘録（令和2年7月8日）
- 285 臨床・クラークシップ部会議事摘録（令和2年10月30日）
- 286 臨床・クラークシップ部会議事摘録（令和3年3月5日）
- 243 教務委員会議事摘録（令和3年3月9日）
- 222 教授会議議事摘録（令和3年3月10日）

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育研究センターが、マンスリーレポートやニュースレターを活用して、積極的に教育情報を発信している。
- ②文学部の教育専門家が教育技法の開発に参画している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育研究センターの情報発信については、医学教育分野別評価における評価チームの講評を特別号①、評価報告書(最終版)を特別号②として、全講座部署の配布と学内各所の掲示を行った。

改善状況を示す根拠資料

- 811 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和2年1月 No. 58)
- 820 医学教育研究センター ニュースレター (令和2年1月特別号①)
- 815 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和2年12月 No. 69)
- 822 医学教育研究センター ニュースレター (令和2年12月特別号③)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①研究室配属(Research Mind Cultivation Program)では、海外や国内の先端研究機関での実習機会を設けている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

2019年度の研究室配属(RMCP)は、コロナ禍で海外や国内の研究機関での実習が行えなかったが、卒業時アンケートにおいて、「本学の教育の優れている点」や「本学の教育に対する意見や要望」に数人が研究室配属(RMCP)を挙げており、今後も、担当講座・指導教員・研究計画の充実

を図るように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

823 医学教育研究センター ニュースレター（令和3年4月特別号 No. 37）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①国際交流の強化に向けての担当部門を設置している。

改善のための示唆

①教職員と学生の国内外の交流に対して経済的支援の強化が望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくに改善活動を行っていない。

改善状況を示す根拠資料

なし

7. 教育プログラム評価

領域7の改善項目として、「教育課程と学修成果を定期的に監視するプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価結果をカリキュラムに確実に反映する」、「教育評価委員会のカリキュラム評価部門で包括的なプログラム評価体制を充実させる」、「教員や学生からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築する」、「フィードバックの分析結果に基づいたプログラムを開発する」、「学生や卒業生の実績を集積・分析する」、「広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築する」などが指摘された。これを受け、カリキュラムのPDCAサイクルについて、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会のカリキュラム評価部門がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うことを教職員全員に周知したところであり、評価結果のカリキュラムへの反映、カリキュラム評価部門における包括的なプログラム評価体制の充実、教員と学生の意見を集積するシステムの構築、学生や卒業生の実績の集積と分析、広い範囲の教育関係者のカリキュラムに関する意見を収集するシステムの構築については、引き続き、改善活動を続ける。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラムのPDCAサイクルについて、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集

や分析、教育評価委員会のカリキュラム評価部門がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うことを教職員全員が確認するために、全講座部署に学内瓦版を配布して包括的なプログラム評価の重要性を周知した。今後は、教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターが連携を進め、教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 230 教務委員会議事摘録（令和元年11月11日）
- 210 教授会議議事摘録（令和元年11月13日）
- 811 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和2年1月No.58）
- 820 医学教育研究センター ニュースレター（令和2年1月特別号①）
- 815 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和2年12月No.69）
- 822 医学教育研究センター ニュースレター（令和2年12月特別号③）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①教育評価委員会の下部組織であるカリキュラム評価部門での包括的なプログラム評価体制を充実させることが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

日本医学教育評価機構の実地調査(10月28日～10月30日)と評価チーム講評(11月1日)を受け、早速、教育評価委員会を開催し(11月19日)、新たな使命と役割を担った教育評価委員会として活動することを確認し、委員長は3部門(教員評価・教務評価・カリキュラム評価)の部門長から選出し、若い教員や女性教員を積極的に加え、学生は学友会から選出することを決定した。定期的・包括的なプログラム評価の手法として、卒業時アンケート(年度末、第6学年)と進級時アンケート(年度初め、第2学年～第6学年)を重視して継続することを教育評価委員会で確認した。2019年度分の集計結果については、「進級時・卒業時アンケート」にまとめ、教務委員会と教授会議に報告し、全学生と教職員(准講会/教育主任/教務課/庶務課)にメール配信・学内瓦版配布・学内掲示を行った。今後は、教職員による包括的なプログラム評価として、カリキュラム評価部門が「教職員アンケート」を行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

- 270 教育評価委員会議事摘録（令和元年11月19日）
- 814 医学教育研究センター マンスリーレポート（令和2年9月No.66）
- 821 医学教育研究センター ニュースレター（令和2年9月特別号②）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①教員や学生からのフィードバックを系統的に集積し、分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育研究センターは、進級時アンケートと卒業時アンケートを収集・分析しており、学生からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムとして稼働している。2020年度については、コロナ禍においても、教務課の尽力で、ほぼ全員のアンケートを回収しており、卒業時アンケートの集計結果(回収率 100%)は、全学生と教職員に文書やメールで報告している(2021年4月12~15日)。今後は、教育主任アンケートの実施、電子FDの活用、「教職員アンケート」の導入を通じ、教員からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

817 医学教育研究センター マンスリーレポート (令和3年4月 No. 73)

823 医学教育研究センター ニュースレター (令和3年4月特別号 No. 37)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①フィードバックのデータを分析し、プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育分野別評価の受審を契機に、カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行う体制(PDCA サイクル)を確認したところである。今後は、教員や学生から得たフィードバックのデータ(例えば、進級時・卒業時アンケート結果)に基づいて教育プログラムの開発を行うように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①2019年に医学部同窓会員に対して卒業生アンケートを実施した。

改善のための助言

①学生や卒業生の実績を集積し、分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育分野別評価の受審を契機に、医学部同窓会員に対する卒業生アンケートを初めて行ったが(無作為抽出法で会員10%に用紙を送付、2019年1月15日)、その後は行っていない。今後は、新設されるIRセンターが医学部教務課・臨床研修センター・医学部同窓会と連携し、学生や卒業生(とくに研修医や専攻医)の実績を定期的に調査・収集して分析するシステムを構

築して実施するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①学生選抜・カリキュラム立案・学生カウンセリングに関する学生の実績を分析し、責任ある委員会にフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生カウンセリングに関する実績については、学生支援室が学生相談室の利用状況(相談件数や相談内容)を学生部協議会(全学組織)に報告し、学生委員会(学部組織)や教授会議にフィードバックを提供している。今後は、新設される IR センターが学生選抜やカリキュラム立案に関する学生の実績を調査・収集して分析し、責任ある委員会(アドミッション検討委員会・カリキュラム委員会・学生委員会・教務委員会など)にフィードバックを提供するように、改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

272 学生部協議会議事摘録(令和2年6月18日)

217 教授会議議事摘録(令和2年7月8日)

7.4 教育関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①卒業生の実績について、同窓会や臨床研修センターからフィードバックを得ている。

改善のための示唆

①教育課程とプログラム評価を確実に実施し、広い範囲の教育関係者が閲覧することが望まれ

る。

②広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

日本医学教育評価機構(JACME)による分野別評価(2019年度に受審)と大学基準協会(JUAA)による機関別評価における教育課程・プログラム評価の実施と結果については、ホームページに公開するとともに、医学部同窓会会報に報告し、広い範囲の教育関係者に紹介した。今後は、教育関連病院長との懇談会だけでなく、地域医療・他職種・患者代表を含む広い範囲の教育関係者に、カリキュラムや教育活動に関する意見を収集するシステムを構築するように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

830 医学部同窓会会報 (令和2年1月25日 No.182)

831 医学部同窓会会報 (令和2年7月25日 No.183)

832 医学部同窓会会報 (令和3年1月25日 No.184)

8. 統轄と管理運営

領域8の改善項目としては、「設置が計画されている『医学IRセンター』に十分な資源を配分する」が指摘された。これを受け、教育活動を高めるための環境整備とコロナ禍の学生の生活支援を行うとともに、IRセンターに十分な資源を配分するように、改善活動が続ける。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①設置が計画されている「医学 IR センター」に十分な資源を配分すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学 IR センターを設立するために必要な費用を申請し、令和 3 年度事業計画予算の「IR システム構築」として、理事会・評議員会で承認された。教育活動を高めるための環境整備として、教育 1 号館トイレ改修工事(洋式トイレへの改修)・教育 1 号館食堂改修(出入口の増設)・教育用 da Vinci 設置(トレセン)を行った。また、コロナ禍の学生の生活をサポートする支援として、全学生に QUO カード(2 万円分)を配布した。今後は、設置が計画されている IR センターに十分

な資源を配分するように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

- XXX 第 883 回理事会（令和 3 年 3 月 26 日）（部外秘）
- YYY 第 276 回評議員会（令和 3 年 3 月 26 日）（部外秘）
- 001 将来構想策定会議中間報告書（令和 2 年 12 月）
- 002 令和元年度 事業報告書
- 224 教授会議議事摘録（令和 3 年 4 月 14 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①自己点検・評価委員会に外部検証を実施する機関として学外者による外部評価委員会を組織し、教育・研究水準の向上と組織の活性化に資する評価と提言を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

定期的な点検を含む管理運営の質保証制度については、2019 年度も学外者による外部評価委員会の評価と提言を受けている。

改善状況を示す根拠資料

003 令和元年度 外部評価報告書

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

9. 継続的改良

領域9の改善項目として、「教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む」などが指摘された。これを受け、カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行う体制(PDCA サイクル)を確認したところであり、教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターは、7年後の受審に向けて、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む。

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①独自の能動的学修手法として「協同学習」を導入したことは評価できる。

改善のための助言

①教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組むべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育分野別評価の受審を契機に、カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行う体制(PDCA サイクル)が確立したところである。今後は、各種委員会の連携を深め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準（評価を実施されず）

久留米大学医学部医学科 年次報告書

発行日 2021年8月20日

発行者 久留米大学医学部医学科
〒830-0011 久留米市旭町 67
TEL 0942-31-7527
FAX 0942-31-4374

印刷 医学部事務部庶務課